

柿 生 文 化 (第30号)

平成22年12月18日  
川崎市立柿生中学校内  
柿生郷土史料館 情報・研究誌  
第30号

## 柿生郷土史料館オープン

開 館

12月5日より一般公開

—— 阿部孝夫市長も熱心に見学 ——

- ◎柿生・岡上の歴史をひもとく
- ◎本物で体感 教科書に登場する史料
- ◎実物の新聞が語る日本の歩み
- ◎柿生・岡上「鉄」の系譜

11月20日(土)柿生中学校校舎落成記念式典及び祝賀会が阿部孝夫 川崎市長のご列席のもと盛大に行なわれました。

当日は、生徒570名と来賓の方々、教職員をあわせ900名以上にのぼる大規模で盛大な式典となりました。

一方、校舎1階に設置された「柿生郷土史料館」のオープンセレモニーが式典終了後、史料館展示室前で郷土史料館支援委員長の小島一也氏らでテープカットが行なわれ、展示物の公開が行なわれました。

今後とも、内容の充実をめざしてまいりたいと思いますので、何卒ご支援くださいますようお願い申し上げます。

### 近日公開

#### I 初公開 「豊臣秀吉御禁制朱印状」

豊臣秀吉が天下統一を目前にした小田原攻めの際、周辺各地域に乱暴狼藉、放火、掠奪等を禁止した文書を出しました。その文書が上麻生の小島氏のお宅に大切に保存されています。

このような御禁制は、現存しているものが大変少なく貴重な歴史資料ですが、このたびこの御禁制(実物)が柿生郷土史料館に展示公開されることになりました。市民ミュージアムには複写が保管されていますが、実物が展示公開されるのは初めてです

#### II 佐藤英行 画伯が描く「地図で辿る思い出のふるさと」

一昨年、「地図で辿る思い出のふるさと～柿生・岡上の歩み～」が柿生・岡上百年会から発刊されました。その中に掲載されている絵画「各地区の風土と暮らし」の原画をこの度、お借りすることができました。近日中に柿生郷土史料館で展示公開致します。柿生・岡上の古き佳き時代の姿を是非ともご覧ください。

展示公開の期日等については「柿生文化」31号(1冊)でお知らせいたします。いずれも、なかなか実物を目にすることは出来ませんので是非お越しください。



(柿生郷土史料館を熱心に見学される阿部孝夫市長)



— 柿生・岡上地名考 VII — 麻生  
 — 柿生・岡上鉄の系譜 VIII —

**謎に包まれる麻生の地名と「鉄」の関係**

現在、麻生は「上麻生」「下麻生」に別れていますが、初めて文献に出てくるのは室町時代の始め足利尊氏の『所領目録』の中に「麻生郷」として登場しています。

麻生が上・下に別れたのは江戸時代初期のことでした。郷村再編成の際、麻生郷は王禅寺・万福寺・上麻生・下麻生などの村々に別れたものと思われます。

さて、「“麻生”の地名と“鉄”の関係」と表題に書きましたが、多くの方はそんなことがあるはずはないと一笑にふされることと思います。実は、この考えは民俗学研究者の何人かの方もこの考えを示していらっしゃいます。

全国の“麻生”地名を調べてみると不思議なことに“鉄”や“製鉄(たたら)”などとの関連事項が多く、川崎の“麻生”も必ずや鉄との関係があるのではないかと考えてしまいます。上麻生の小島一也さんもこの点に大変関心を持たれ実際に岐阜県加茂郡七宗町上麻生まで出向かれたことがあったそうです。

まずは、関東地方の“麻生”地名だけでも調べてみましょう。

場 所	鉄・製鉄と関係することから
茨城県麻生町	<ul style="list-style-type: none"> <li>『常陸国風土記』に佐備大麻呂が704年に剣を鍛えた伝説</li> <li>鹿島の砂鉄</li> </ul>
埼玉県秩父郡大滝村 麻生	<ul style="list-style-type: none"> <li>近くに秩父鉄鉱山・近くを流れる神流川(かんながわ)</li> </ul>
群馬県多野郡万場町 麻生	<ul style="list-style-type: none"> <li>近くに秩父鉄鉱山・近くを流れる神流川(かんながわ:上記とは違う川)</li> <li>製鉄に関する金鑽(かなざ)神社・丹生神社(鉄や水銀に關係)</li> </ul>
千葉県印旛郡栄町 麻生	<ul style="list-style-type: none"> <li>隣接地域に製鉄遺跡と「須賀(すが)」地名。砂鉄に關係か。</li> <li>利根川の対岸に「金江津」「和銅谷」の金属地名あり</li> </ul>
栃木県栃木市藤岡町赤麻	<ul style="list-style-type: none"> <li>同地域の大前神社境内に大量の鉄滓</li> </ul>
川崎市 麻生区	<ul style="list-style-type: none"> <li>鶴見川の砂鉄 ・隣接地に「鉄(くろがわ)」の地名</li> <li>区内に平安期のタタラの羽口(竈に空気を送る土製の管)出土</li> <li>「金井」「金程」「タタラ橋」等の金属関連地名</li> <li>鶴見川・麻生川・片平川で見られる川底の「金洪」</li> <li>周辺に忌部氏(製鉄技術を傳つ古代氏族)と關係ある「杉山神社」の存在</li> </ul>

以上の“麻生”地名と鉄の關係があげられます。また全国の範囲でみると確かに「麻生」地名と「鉄」の関連は多く見られます。しかし、麻生地名と鉄関連の場所との間の距離がありすぎるものもあるのでその点では關係が100パーセントというわけにはいきません。川崎市麻生の場合は、その点では条件が揃っています。今回は「麻」と「鉄」の關係について考えてみます。(参考資料:谷有二「日本山岳伝承の謎」・谷川健一「青銅の神の足跡」)

# 川崎市民劇「枳形城 落日の舞」 平成23年 5月公演

《 作：小川信夫 演出：ふじたあさや》

## — 枳形城を築いた武将、稲毛三郎の物語 —

平成20年に上演されて大変好評でした市民劇『池上幸豊とその妻』に続いて今回は、鎌倉時代に現在の川崎北部で活躍した武将稲毛三郎重成の生涯を劇化し、市民劇として平成23年5月に上演されます。

### 上演日程

5月 6日 (金)	18:30	多摩市民館
5月 7日 (土)	14:00	多摩市民館
5月 8日 (日)	14:00	多摩市民館
5月20日 (金)	18:30	教育文化会館
5月21日 (金)	14:00	教育文化会館

### 料 金

大人	3000円	前売り開始 平成22年12月15日
(続)	2500円	
学生	1500円	

売り切れが予想されます。柿生郷土史料館にも前売券を準備しております。

## — 柿生郷土史料館 閉館のご案内 —

### 閉館時間

開館：午前10時  
閉館：午後 3時

### 閉館日

12月 5日 (日)	1月 9日 (日)
12月11日 (土)	1月15日 (土)
12月19日 (日)	1月23日 (日)
12月25日 (土)	1月29日 (土)

2月以降の予定は「柿生文化」31号(1月18日新刊)でお知らせいたします。

## カルチャーセミナー案内

第25回 柿中 **カルチャーセミナー** ご案内

日時 平成22年12月20日 (月)  
午後6時より  
会場 柿生中学校 視聴覚室

テーマ 「枳形城悲話」 — 稲毛三郎重成の生涯 —

講師 小川 信夫 氏  
(劇作家)

内容 平安末から鎌倉時代にかけて川崎で活躍した源頼朝の義兄弟「稲毛三郎」の生涯と人物を探ります

## カルチャーセミナー案内

第26回 柿中 **カルチャーセミナー** ご案内

日時 平成23年1月31日 (月)  
午後6時より  
会場 柿生中学校 視聴覚室

テーマ 「川崎たちばなの古代」 くが 橘樹郡衛を探る

講師 村田 文夫 氏  
(元川崎市教育委員会文化財課長・元日本民家園長)

内容 影向寺・橘樹郡衛遺跡発掘調査にもとづいた古代川崎の姿を明らかにする。

## お知らせ

「柿生文化」は次の場所にも置いてあります。ご利用下さい。

- ・麻生市民館 ・麻生図書館 ・区役所柿生出張所 ・麻生図書館柿生分館
- ・麻生市民館岡上分館 ・JA川崎 柿生支店 ・JA川崎 東柿生支店
- ・川崎信用金庫柿生支店 ・麻生病院 ・書籍ひろみ (柿生駅前商店街)